

令和7年度 文京区障害者地域自立支援協議会

第2回 就労支援専門部会 要点記録

日 時 令和7年10月31日(金)14:00~16:00

場 所 文京シビックセンター 3階 障害者会館 A・B 会議室

出席者 志村 健一 協議会副会長・瀬川 聖美 部会長・前田 貴子 副部会長・藤枝 洋介 委員
見城 圭美 委員、小野寺 肇 委員、池田 直矢 委員、小泉 洋平 委員、長澤 みこ 委員
中瀬 茂由 委員、大野 聡士 委員・森 裕介 委員、望月 大輔 区委員、小谷野 恵美 区委員
鶴田 秀昭 委員 (zoom 出席)

欠席者 山口 裕紀子 委員、野村 育代 委員、石田 由美子 委員、平井 芙美 委員

<会議次第>

- 1 開会
- 2 報告事項
ワーキンググループ・3 区合同検討会の報告
【資料第1号】
- 3 検討事項
(1) 就労選択支援事業チラシ(案)について
【資料第2号】
(2) 支援者説明用のマニュアル(案)について
【資料第3号】
(3) キャリアアップシート(就労引継ぎ票)(案)について
【資料第4号】
- 4 その他
- 5 閉会

<配布資料>

- ・令和7年度第2回就労支援専門部会 令和7年10月31日(金)……………【資料第1号】
- ・就労選択支援事業チラシ「就労選択支援」はじまります(案)……………【資料第2号】
- ・就労選択支援 取説(支援者アンチョコ)バージョン1.0……………【資料第3号】
- ・キャリアブリッジシート(就労引継ぎ票):旧フィードバックシート(案)……………【資料第4号】

<参考資料>

- ・就労支援専門部会委員名簿
- ・令和7年度就労支援専門部会 第1回ワーキンググループ要点記録
- ・令和7年度就労支援専門部会 第2回ワーキンググループ要点記録

【開会】

- ・部会長より、欠席者及び当日資料の確認。

【議事】

〈報告事項〉

(1) ワーキンググループ・3 区合同検討会の報告

【資料第 1 号】

- ・資料について、事務局より説明。

(各委員より)

- ・文京区内では、申請中の事業所は 1 か所ある（ベルーフ）。IT 系のプログラムを主としている。就労移行であり、精神や発達の方が多い事業所になる。
- ・内容が固まったら、区内関係事業所にも共有していく。ベルーフがどのような事業所であるか、理解できるような場を設定していく。
- ・精神、発達が中心である為、他の障害の方については、不安な面もあると思うので、地域の中でもバックアップしていく必要はある。
- ・区内で 1 か所、手を挙げてくれたことはありがたい。そこから学べることも沢山ある。1 度、部会に来ていただき、現状などの意見交換ができると良い。必要なサポート体制についても話せると良い。
- ・ITプログラムのみでは、苦しくなる対象者もいる。
- ・知的障害のノウハウがなく、支援学校の方にも来校されて話をした。
- ・他の事業所を借りて作業を行うことになった場合、費用の問題が発生する（選択支援事業所には支給され、作業を行い事業には支給されない）。
- ・費用の面についても検討できれば良い。
- ・都立学校であれば、周知はしやすいが、私立の学校は周知しづらい面がある。
- ・就労選択支援事業所から実習の依頼があった際、今までの支援学校からの実習生と同様に受け入れる。アセスメントは就労選択支援事業所の方が取るため、作業を提供するのみ。
- ・企業での立場での実習受け入れについては、依頼を受けて実習を行うことになる。就職を前提とした実習になる為、実習のみとなると要検討になる。

〈検討事項〉

(1) 就労選択支援事業チラシ(案)について

【資料第 2 号】

- ・資料について、事務局より説明。
- ・チラシの使い方については、「ラックに入れて興味がある方が持って行く」ということではなく、支援機関や支援者が、「このようなサービスがある」との補足説明も含む「チラシ」となっている。

(各委員より)

- ・支援学校には沢山送付していく。
- ・「短い時間で」という分は不要。裏面にて、「1か月の機関で」との記載がある為。
- ・「本人が意思決定できるよう支援する」との表現であると、なんでもかんでも「自分自身で決める」と思ってしまう為、「働くことについて、意思決定できる」との表現が良い。

(2) 就労選択支援 取説(支援者アンチヨコ)バージョン 1.0

【資料第3号】

- ・資料について、事務局より説明。

(各委員より)

- ・「ケース会議で決められた場所に行かないといけないですか」、との内容は断定的である為、「提案された場所で」という表現が良いか。ご本人が選択できる気持ちになる。
- ・利用期間のところで、1か月が原則となっている為、「最長」はなくても良いか。
- ・利用者目線で、1か月間行う内容について、「どのようなことを行うか」、「どのような成果が得られるか」等が分かると良いか。今後起きること、順序が分かると良い。
- ・可能であれば、図のようなものがあっても良い。
- ・多機関連携会議、ケース会議との表記について、同じ会議であっても表記が異なっていると、「違う会議」と認識してしまう。同じ会議であれば()付けて、ケース会議と表記すると認識できると思われる。
- ・「取説」ということであれば、「チラシ」プラスでの説明になっていく。分かりやすく流れを説明することが良いので、文面のみではなく、図もあると良い。
- ・計画相談が関わってくることが多く、「身近な応援団がいる」との気持ち。セルフプランでも「安心できる」という内容であると良い。
- ・1か月の期間の途中で、「就業」を希望した場合は、その後つながらないのか。利用申請ができなくなるのか。

(3) キャリアブリッジシート(就労引継ぎ票):旧フィードバックシート(案)

【資料第4号】

- ・資料について事務局が説明。

(各委員より)

- ・計画相談の事業所の事業所名も記載した方が良い。
- ・多機関連携会議について、就労選択支援事業所が進めていくのか、計画相談事業所が進めていくのか、マニュアルがあると良い。
- ・足並みを揃える意味でも、就労選択支援事業所と計画相談事業所の両方の名称があると良い。計画相談事業所は、地域のことも良く知っている。
- ・多機関連携会議について、各関係機関を呼ぶこともあり、選択支援事業所より、計画相談事業所の方が知っている場合もある。
- ・シートの共有される範囲が明確になっていることが良い。本人にも知らせておく。本人が何も知らないところで、知らされることがないようにしたい。
- ・就労選択支援事業を利用し、クローズで就労した方について、自動的に企業に持ち込まれないようにし

て欲しい。

- ・採用する側としては、本人の特性や課題なども見えて、参考になるシートになると思われる。仕事を考える上でも参考になると思われる。本人としては、開示されることについては別になる。
- ・企業に提供することについては、慎重になる。
- ・本人、保護者の了承を得てからの扱い。知的の方であると、ADLやコミュニケーション等の項目もあると良い。
- ・本人側から、同じようなものを企業からもらえると、「差異」が判りやすいと思う。比較するには「当事者」がどのように考えているか、共有できると思う。
- ・「過去にあった就労事例」を載せることで、利用者が「これだったら自分もできる」となると思われる。

【閉会】

- ・副会長より、「意見を出し合って顔が見える関係ができてるのが、文京区の強みである。手をあげていただいている事業所にも、忙しいとは思いますが、会議に来ていただき、良い関係性ができると良い」
- ・事務局より、「3月3日(火)14:00~17:00で、全体会の開催」と案内。
- ・次回、第3回の部会については、1月頃を予定する。